

『互いの徳を建てるために』 コリント人への手紙第二12章14～21節 2016.9.4(聖日礼拝説教より)

『キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。』
コロサイ3:15

◆パウロは、あらゆる誤解、中傷、陰口などものともしない愛でコリント教会と向き合い、いつも聖霊様に従い、正しいことを選べた！神様は教会に平和が満ち、クリスチャン同士の仲が良いことを強く願われる(ヨハネ 13:35)。もし教会内に批判や陰口等があるなら、その教会は祝福されないどころか壊れていく…一致できないから！『…謙遜と柔和の限りを尽くし…愛をもって互いに忍び合い、平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい(エペソ 4:23)』。教会の誰もが認めるほどの「明らかな罪」でもないのに、「私は嫌！」と自分本位になる時、「争い、憤り、陰口、高ぶり…(20節)」が顔を出す。

◆約450年前、宣教師としてきた二人のフランシスコ！ザビエルはわずか2年で60万人以上の信徒を生み出し、カブラルは8年もいて成果を出せず、逆に信徒と宣教師の関係を悪くした。違いは一つ！ザビエルは日本を愛し、徹底して日本人に仕え、カブラルは日本を嫌い、日本人を蔑視し、最後まで仕えることがなかった。互いに不完全で嫌な人でも、神の目には、赦し合い、愛すべき存在！罪深い者同士が、神の愛・イエス様の赦し・聖霊様の慰めを受けて心優しくされてこそ「福音(良き知らせ)」なのでは？

◆『愛する人たち。すべてはあなたがたを築き上げるため…(19節)』とある。神の最大の願いは、クリスチャン一人一人が成長して教会が建て上げられること！そのために、20～21節の罪は取り除かれなければならない。どうすれば成長できる？それはイエス様の真似をすること(1テサロニケ 1:6)。嫌な人を赦し受け入れ、傷ついた人を慰め、泣く者と共に泣き、敵を愛し、迫害する者のために祈られたイエス様！私たちも真似しよう…って無理だろう！と思った人は信仰の根本がズレている！『愛は神から出ているのです(1ヨハネ 4:7)』、『聖霊が臨む時、あなたがたは力を受ける(使徒 1:9)』。神の愛と力を受けて初めて可能に！

★たとえ損するとわかっていても、神の目に正しいことを行う勇気を持ちたい！そのために謙り、何が正しく良いことで、何が悪なのか、み言葉を読み、祈り、イエス様の御姿を態度に言葉に表情に映す一週間としたい！